

- 本県農業の「担い手」は高齢化などにより、平成22年から平成27年の5年間で約1万経営体が減少しており、地域農業の担い手の確保、育成が課題である。
- 新規就農者は、就農後の**目標所得の未達成者が多く、早期の経営確立が課題となっている。**
- 各種研修会、講座の開催を通じて、新規就農者、青年農業者の経営に関する知識の習得や経営管理能力の向上を支援する。
- 今後の地域農業を担う経営者能力の高い**「企業的」な経営体の育成をめざす。**

普及活動の成果

1 将来の地域農業を担う青年農業者の受講

- 平成27年度14名、平成28年度9名の青年農業者が県内各地から受講。平成23年度からは、延べ57名が受講。



2 青年農業者の受講後の経営発展

- 受講者は、企業家塾で作成した経営計画に基づき、自身の目標達成に向けた経営発展の取り組みに進んでいる。

[受講生Bさんの事例]

企業家塾を受講後、経営を法人化するとともに、経営部門の見直しを図り、水稲中心の経営から業務用野菜の生産を開始。

[受講生Wさんの事例]

受講後、経営規模拡大を図るとともに、雇用労力を導入。また、家族経営から法人化し、経営面積を約3倍に拡大。

3 受講者の声

- 「意識の高い新規就農者の皆さんと受講できて良かった。自分も経営計画を「見える化」し、精進していきたい。
- 自分なりに計画していたプランについて、深く考える時間となった。
- 農業に携わる企業の代表の方々の経営スタイルを学ぶことができたのは、自分の経営に繋がると思う。

普及活動の特徴

- 受講生自らの経営を題材に、SWOT分析による現状分析や経営戦略策定などのワークショップにより、**受講者が主体的に考える講座とした。**

- 受講者とともに、現地の担当普及員も講座を受講する形式として、講座期間中及び終了後の**受講生のフォローアップを強化した。**

主な活動内容

- 「いわて青年農業者企業家塾」の開催(27年～28年)
(企業家塾は、平成23年度から継続実施しているもの)
- 将来の地域農業を担うと期待される認定新規就農者や青年農業者などを対象として、経営に関する知識の習得や経営実践力の向上を目的に実施。
- 全6回の連続講座として開催し、第1回～第3回は、岩手県立大学総合政策学部教授や県内外の先進的な農業経営者、他産業の経営者など多彩な講師陣を迎え、経営理念や経営戦略の重要性などを学ぶ。
- 岩手県農業研究センターで開発した「営農計画作成支援シート」を活用して生産計画、収支計画などを含めた、今後5～10年度を見据えた事業計画の策定を支援。
- 最終講座は、受講者が作成した事業計画をプレゼンテーションすることで、経営者としての自身の想いを人に伝えることの重要性を理解してもらう場とした。

※平成28年度の主なカリキュラム

| | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 2016年10月28日(金) 10:00～17:00 |
| 1 回目 | ✓ 経営発展のためのヒントを得る 【講義】 これからの農業経営者に求められる経営能力とは 【事例】 畑田農園の農場物語 畑田 敏克氏 戦略的事業計画と経営革新 戸田 直貞氏 【演習】 農業経営の将来像や理念を考える |
| 2 回目 | ✓ 経営構想を考える 【講義】 事業計画書を作成する意義と作成のポイント 【演習】 新たな取り組みのコンセプトを考える 【紹介】 企業家塾OBの経営紹介 |
| 3 回目 | ✓ 経営戦略を考える 【講義】 経営の強みを活かし、弱みをどう克服するか 【演習】 SWOT分析により自己の経営の強みと弱みを整理する 【紹介】 企業家塾OBの経営紹介 |

関係機関との連携

- 企業家塾のカリキュラム、運営においては、岩手県立大学総合政策学部の協力のもと、受講者の経営能力向上に資する専門的な講座内容となるよう工夫した。